



「加齢性難聴について」

年を重ねると聞こえが悪くなったり、聞き取りにくくなるのを皆さんご存じかと思います。では、難聴が何歳くらいから始まるのか、知っていますか？加齢性難聴は、一般的に50代から始まり、60代前半では5～10人に1人の割合、60代後半になると3人に1人で加齢性難聴をみとめます。両耳同時に症状が出現し、高い（周波数の）音が聞こえにくくなっていきます。糖尿病や動脈硬化、高血圧などのいわゆる成人病の症状があると、加齢性難聴が起こりやすいことがわかっています。また、喫煙・飲酒・騒音環境なども悪い影響を及ぼします。これらに気をつけることで、加齢性難聴はある程度予防できると考えられます。また「酸化ストレス」が組織を障害するため、「抗酸化作用」のある食材を摂取することも大切です。ポリフェノール（ワイン、チョコレートなど）、リコピン（トマト）、βカロチン（緑黄色野菜）などをバランス良く食べましょう。自分や家族の聞こえが悪くなったかな？と思ったら、ぜひ耳鼻咽喉科で聴力をチェックしましょう。

注目!

10/31はハロウィーンですね。日本でも最近では仮装をして楽しんだり、お菓子を配ったりパーティをする季節の行事となっています。10/30、10/31のオギジビでも何かお楽しみがあるかもしれませんよ！



オギジビ 豆知識



「言語聴覚士（ST）とは？」

おぎはら耳鼻咽喉科には言語聴覚士が2人勤務しています。そもそも言語聴覚士がどんな職種なのか、ピンとこない方も多いかもしれません。言語聴覚士は文字通り「言語」と「聴覚」の専門家です。聴く（インプット）・話す（アウトプット）というコミュニケーションにおいて重要な点を専門的に評価したり、訓練（リハビリテーション）したりします。おぎはら耳鼻咽喉科では、聴力検査や補聴器の調整・装用指導、小児の言語訓練などを主に行っています。

<言語聴覚士よりお知らせ>

11月には第三回補聴器体験会を予定しています。興味がある方は、院内スタッフにおたずねください。ご予約はお電話でも承っております。

オギジビの輪

- お友達・お知り合いに、是非おぎはら耳鼻咽喉科をご紹介ください。
- 神奈川県では珍しい、言語聴覚士のいる耳鼻咽喉科です。難聴や補聴器については大学病院レベルの診察・検査体制を整えています。
- ちょっとした不安の解消から専門的な診察まで、幅広く行っています。

